

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「よろしくね」 教材名「よろしくね」

2 単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、身近な語句の意味を確かめ、話や文章で使う。思考・判断・表現では、名前と相手に伝えたい好きなことを選び、互いに紹介する。交流や試行の前後を比べ、自分の紹介の絵とメモを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近な語句の意味を確かめ、話や文章で使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「話すこと・聞くこと」において、名前と相手に伝えたい好きなことを選び、互いに紹介している。（A(1)ア）	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

この単元では、自分を紹介するときを使う言葉を中心に学ぶ。名前と相手に伝えたい好きなことを選び、互いに紹介する活動を組むことで、言葉について知ることと、目的に合わせて使うことを結び付ける。指導要領の〔知識及び技能〕(1)オとA(1)アに関係する学習である。成果は、自分の紹介の絵とメモに示した判断と理由から捉える。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

予想される難しさは、思い付いたことを全て話そうとすることである。好きな遊びや食べ物など話題の絵を用意し、伝える内容を選ばせる。初めの答えを消さずに残し、学習後に何を変えたか、なぜ残したかを比較できるようにする。児童の反応は予想である。実在の学級の姿を示すものではない。読む速さや記述量の差を、そのまま国語の力の差として扱わない。

5 指導と評価の計画（全1時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本 時）	○名前と相手に伝えたい好きなことを選び、互いに紹介する。 ○考えた理由を交流し、自分の紹介の絵とメモを仕上げる。	知①・思①（学習記録）／態① は関連する学習の記録も合わせて見る。



6 本時の指導 (1/1)

(1) 本時の目標

名前と相手に伝えたい好きなことを選び、互いに紹介することができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 身近な経験と既習の言葉を確認め、今日使う教材や資料を準備する。 ○「初めて話す友達に何を知ってもらいたいかな」 【めあて】自分を紹介するときを使う言葉について、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・好きな遊びを話すと一緒に遊べそうだ。 ・どこを確認めれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例を見える所へ置く。思い付いたことを全て話そうとする姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 (分)	2 名前と相手に伝えたい好きなことを選び、互いに紹介する。 3 話し手と聞き手を交代し、相手が伝えた内容を確認めて質問や応答を返す。 4 「初めて話す友達に何を知ってもらいたいかな」を観点に、伝わった内容と伝わりにくかった点を確認め、もう一度話したり聞いたりする。 〈予想される児童の反応〉 ・好きな遊びを話すと一緒に遊べそうだ。 ・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	好きな遊びや食べ物など話題の絵を用意し、伝える内容を選ばせる。知識・技能では、身近な語句の意味を確認め、話や文章で使っている。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①名前と相手に伝えたい好きなことを選び、互いに紹介している。(A(1)ア) (発言・聞き手の応答・聞き取りや話し方の記録)
まとめ (分)	5 自分の紹介の絵とメモを確認め、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】伝えたいことを選び、相手の応答を確認めると、話す内容や言い方を見直せる。 6 最初から変えた点、理由を確認めて残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。初めて話す友達に何を知ってもらいたいかなへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知①(自分の紹介の絵とメモと実際の言葉の使用)・態①(単元を通した試行や見直し)

(3) 本時の評価

おおむね満足できる状況は、名前と相手に伝えたい好きなことを選び、互いに紹介している姿である。発言・聞き手の応答・聞き取りや話し方の記録を基に判断する。思い付いたことを全て話そうとする場合は、好きな遊びや食べ物など話題の絵を用意し、伝える内容を選ばせる。読み書きの速さや発表の回数ではなく、本時の目標に関わる言葉の使い方と判断を捉える。

(4) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には自分を紹介するときを使う言葉を確認する語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に自分の紹介の絵とメモで残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

